

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-170206

(43)公開日 平成8年(1996)7月2日

(51)Int.Cl.⁶

A 41 D 27/20

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

N

H

審査請求 未請求 請求項の数5 FD (全6頁)

(21)出願番号

特願平6-333152

(22)出願日

平成6年(1994)12月14日

(71)出願人 390030409

株式会社サンリット産業

大阪府大阪市中央区谷町3丁目6番7号

(72)発明者 中山 副武

和歌山県橋本市小峰台1丁目8番14号

(72)発明者 松崎 吉則

兵庫県三田市あかしあ台3丁目18番7号

(72)発明者 小池 俊二

大阪市旭区大宮5丁目3番14号

(74)代理人 弁理士 足立 英一

(54)【発明の名称】 被服のポケット

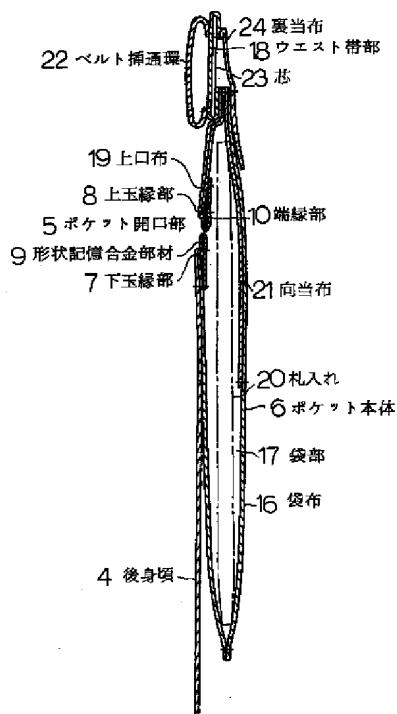
(57)【要約】

【発明の名称】 被服のポケット

【目的】 ポケットの開口部に着用者の体温による衣服温度で形状回復する形状記憶合金部材を装着した被服のポケットを提供する。

【構成】 被服に形成されるポケットの開口部の片側又は両側の端縁部に形状記憶合金部材を装着し、約20℃以下の低温域の変態点での超弾性等の特性を利用した構成とする。

【効果】 着用者の体温による衣服温度で略直線状等に形状回復し、特に頻繁な出し入れや、洗濯、クリーニング等で傷み易いポケット開口部の型崩れ変形等を防止する。また外観視認上も従来品と殆ど変わらず設計基準の再構築も要せず、長期間にわたり体裁よく着用できる被服の改良につながる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 被服に形成されるポケットにおいて、該ポケットの開口部の少なくとも一方の端縁部に形状記憶合金部材を被封状態として装着してなる被服のポケット。

【請求項2】 前記形状記憶合金部材を、表胸ポケットに付設した名札形のラップを胸ポケットに挿し込んだ状態でラップが完全に隠れるように取付けた洋服の上衣に装着してなる請求項1記載の被服のポケット。

【請求項3】 前記形状記憶合金部材を、ポケットの上端縁部からネーム等を表示したラップを垂下させ、稍下方位置にラップの差し入れ部を形成した上衣の胸ポケットに装着してなる請求項1記載の被服のポケット。

【請求項4】 前記形状記憶合金部材を、ポケットの内空部をウエスト帯部迄達せしめ、差入れ開口部をポケット内空部の上端より下方に位置せしめたスラックスのヒップポケットに装着してなる請求項1記載の被服のポケット。

【請求項5】 前記形状記憶合金部材を、表生地に横向きの切目を入れて上下に分割し、下生地部の外側に表当布を設けて上端部が開口となるパッチポケットを形成すると共に、上生地部の裏側には下生地部の上端部に接合された裏当布を設けて逆向きの上ポケット部を形成し、開口を中間部に備え、かつ該開口部を隠蔽状態としたスラックスのヒップポケットに装着してなる請求項1記載の被服のポケット。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は被服のポケットに関し、ポケットの開口部に着用者の体温による衣服温度で形状回復する形状記憶合金部材を装着した被服のポケットに関する。

【0002】

【従来の技術】 従来、被服に形成せられるポケットでは、手回り品を身につけておく為に衣服につけられたのが始まりで、衣服の外側からは見えないような場所に付けられたが、作業衣等の実用性のはっきりしたものは外側にはり付けられたものも多い。一方、フォーマルな衣服にはポケットを付けなかったり、隠して付けられるものが多くポケットはあくまで実用性の強いものであったが、服飾の変遷に伴って実用性以外にポケットに縁取りやプリーツ等の技法を加え、又はデザイン上、装飾的又は強調的に付けられ装飾効果を高める役割も果たすようになっている。さらに全く物入れの機能を持たない見せかけのポケットが付けられることもあり、このように今日のポケットは従来の札入れの他、キャッシュカードやパスポート等迄広範にわたる貴重な所持品を持ち歩く機会が多くなっており、携帯上の実用性と併せデザイン上の外観装飾性も備えることが希求されるに至っている。また、ポケットは、構造的には衣服の共布や別布を外側

につける張りポケットと衣服の表に切り込みを入れて内側に付ける切りポケットに大別できるが、この他切替線を利用してつくったポケット、雨蓋付きのラップポケット、ポケットの内部にもう一つポケットをつけたもの、ファスナーで開閉できるようになっているもの等がある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 被服に形成せられるポケットでは、収納する財布、定期、名刺入れやキャッシュカード等を持ち歩き、これらを頻繁に出し入れする為、ポケットの差入れ開口部の上端縁と下端縁との間隙部分に手を差し込んで収納物品を度々出し入れする箇所でポケットの該開口部が変形或いは傷み易く、また被服は季節毎の不使用期間は折り畳んで他の被服と重ねて保管したり、長期間の着用や洗濯を繰り返すうちに該開口部が形崩れを起こし易く、特にその上端縁に比し下端縁側の下端縁部が中央部分が湾曲状に垂れ下がる傾向があり、その垂れ下がりにより元のライン形態に回復し難く開口部での型崩れや不均整な隙間が発生する問題があった。特に、夏期にあっては、一般に上着を着用しないことが多く、そのため通常、上着のポケットに収納される物品を下衣のズボン、スラックス等に入れて持ち歩くような場合、椅子に座ったり階段登り等の曲げ姿勢では臀部の位置近傍での弧状体型と相俟って尚更、開口部の下端縁部が不均整な湾曲状に垂れ下がったポケットの型崩れ等がみられる。また、日常通勤、通学時で使用頻度の多い上衣に形成されたポケットにおいても差入れポケット開口部に不均整なたるみ等が生じ易く、外観視認上も不体裁で見栄えが劣るといった欠点があった。出願人も、例えば洋服の上衣の実開昭56-31510号、上衣の胸ポケットの実開昭59-172730号、スラックスの実公昭55-46725号、スラックスのヒップポケットの実公昭63-21529号等を既に提案しているが、いずれもポケットの開口部での上端縁部及び、特に下端縁部で中央部に多くみられる稍湾曲状の不均整な差入れ開口部の垂れ下がり、或いは変形や傷みが視認され、上記のような構成でも該開口部の下端縁部が垂れ下がり易く縫製時の均整なラインや開口状態を維持しにくい難点があった。

【0004】 この為、従来例えば実公昭57-9364号公報等のように下端縁部側や上口布より垂下させたベルト又は布片等を設けたボタン掛け、或いは開口部の前身頃にラップをさらに縫着して該開口部を隠蔽状態とする構成がとられているが、上衣の胸ポケット、或いは上衣の着用が少ない夏期にはスラックス、ズボン等では外部より視認されるため、外観上も見栄えが劣り、また上記ラップを縫着するとしても縫製手数を要し、被服の種別、用途等によっては外観デザイン上も相応しない等の難点があった。また近年、形状記憶合金を用い、例えば実開昭63-11519号公報には、肩パッドの縫

部に肩口曲線形状に予め記憶させた形状記憶合金からなる線材を挿入した肩パッド、或いは実公平5-43047号公報には、袖の付根部の垂れ綿に円弧形状にワイヤー状の形状記憶合金を袖ぐりの略上半周に沿いつけた形状記憶合金入り衣服等が提案されている。上記提案は、肩パッドの肩口曲線形状或いは学生服等の袖付きの形状記憶合金入り衣服のごとく体型を整える肩パッドの改良、又は厚くコシの強い肩パッドを用いず着用者の肩から上腕前部分に衣服と十分な空間を確保する円弧形状等の仕立て立体感を得ようとするものである。すなわち肩パッドや袖付部での膨らみのある造形性や身体への圧迫感等を解消を目的としているが、本発明ではポケット開口部の少なくとも一方の端縁部に略直徑又は臀部や脇部等に沿った緩やかな弧状ラインの確保を充足すればよく、複雑な肩部や袖付部での円弧形状等の形成とは違って、外観デザイン上の体裁及び美感を解決課題とするものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記課題を達成するために、本発明では被服に形成されるポケットにおいて、該ポケットの差入れ開口部の少なくとも一方の端縁部に形状記憶合金部材を被封状態として装着してなる被服のポケットを提供することを目的としている。他の目的は、開口部に形状記憶合金部材を被封状態として装着することにより長期間の着用や洗濯等によるポケット開口部の上下端縁部の型崩れや変形、或いは不均整な垂れ下がり等を防止でき、外観上も体裁、見栄えの良いポケットの開口部を縫製上も簡易かつ有利に得ることにある。上記被服、すなわち上衣及び／又は下衣に形成せられるポケットに形状記憶合金部材を装着する位置及び構成は該開口部の適当な箇所とすることができるが、まず外観デザイン上の見栄えを損なうことなく、また被服の着用者が物品を頻繁に出し入れするとき妨げとならず、さらに身体に圧迫や違和感を与えず、かつ着用時或いは洗濯、保管時を問わず、該部材の一部が突き出す等の危険性を防止するため、例えば両端に樹脂被覆体等を施した構成とすることが適当である。

【0006】本発明において用いる形状記憶合金部材は、適宜形状記憶合金の種類や形状、寸法、或いは形状記憶効果として熱弾性型マルテンサイト(M)変態と関連する超弾性ないし超高弾性等の特性、さらに回復作動温度、回復力、回復歪み、ヒステリシス、疲労寿命等の他、コスト、経済性等を勘案し選択することができる。例えば、本発明で用いる形状記憶合金部材は、100°C以下の低温域、好ましくは体温30°C以下の25°C以下、さらに好ましくは20°C以下の衣服温度を変態点とし、優れた形状回復を示すものから選ぶことができ、例えばTiNi合金を用いることが適当である。さらに、形状、寸法については、ポケット開口部の端縁部に縫着可能で、かつ嵩張りの少ない例えば線径約1.5mmΦ

以上の線材の他、ワイヤー状、又は横幅約2mm以上、厚さ約50μ以上のテープ状部材等を用い、形状記憶効果としての超弾性ないし超高弾性の特性を利用することができる。また、該形状記憶合金部材は上記のとおり両端に突き出し防止の為の樹脂被覆体等の形成と併せ、ポケット開口部での上玉縁部又は下玉縁部の端縁部に縫着するに際し、芯材に沿い付けられた位置及び構成として装着し取り付けることが適当である。

【0007】

10 【作用】本発明の被服のポケットは、着用者の体温による衣服温度で略直線状等に形状回復し、特に着用時に頻繁に差し入れ、或いは洗濯、クリーニング等により傷み易い被服のポケット開口部の型崩れや変形、半開き状態を防止するように働く。また、本発明では、形状記憶合金部材は熱弾性型M変態の超高弾性を示し、かつ低温域の20°C以下の着用者の体温による衣服温度を変態点とし、形状回復する形状回復特性の優れたTiNi合金を用いることができると共に、従来の肩パッドや衣服の袖付部、プラッジャー等の衣服内温度による複雑な円弧形状の形状回復或いは違和感、造形性の低下等と違って、略直線状の形状回復を充足すればよく、衣服温度での該部材の合金の種類、形状、寸法、回復温度、疲労寿命等の他、被服の種類並びにコスト、経済性迄を適宜選択し、ポケット開口部の型崩れや変形等を容易に解消でき、長期間にわたり体裁を整え、被服の外観デザイン上の改良につながるように働く。

【0008】

【実施例】以下本発明の実施例を図面に基づいて具体的に説明する。図1は本発明でポケット開口部の上下玉縁部に形状記憶合金部材を装着した一部切欠縦断面説明図、図2は該開口部の下玉縁部に形状記憶合金部材を装着した一部切欠縦断面説明図、図3は前記図1の一部拡大断面図、図4は前記図2の一部拡大断面図、図5はポケット開口部の上下玉縁部に形状記憶合金部材を装着した一部切欠側面説明図、図6は下玉縁部に形状記憶合金部材を装着した一部切欠側面説明図、図7は本発明に係るポケット開口部を示すスラックスの一部切欠側面図、図8は本発明に係るポケット開口部を示す上衣の側面図である。図1～8において、1はスラックス、2は上衣、3は前身頃、4は後身頃であり、ポケット本体6には収納物品出し入れの為のポケット開口部5が形成されており、該開口部5は図7および図8に示すようにスラックス1では後身頃3のピップポケット12および前ポケット25、上衣2では胸ポケット13および前身頃2の下方位置に脇ポケット14が縫着し取付けられた構成となっている。

【0009】ここで、上記図1～図7は、さきに出願人が提案の実公昭55-46725号公報のスラックスに係る概略構成を挙げ、本発明の構成について以下説明する。前記ポケット本体6では、ポケット開口部5を挟ん

で相対峙する端縁部10の下玉縁部7および上玉縁部8の内側に、テープ形状の形状記憶合金部材9を芯材11に沿い付けて別布12で被封状態とし、かつ該ポケット開口部5の両側縁に達する長さで挿入し被包状態としたものを装着した構成としている。図1～7において、スラックス1の前身頃4にはピップポケット13が形成されており、16はポケットの袋布、17はポケットの袋部であり、該袋部17の上端はウエスト帯部18にまで達している。そして、該ポケット開口部5は袋部17の上端より数cm下ったところに形成されている。ポケット開口部5では、図1および図5に示すように、下玉縁部7および上玉縁部8のそれぞれに芯材11に沿い付けて被包状態とした形状記憶合金部材9を縫着して取付けた構成、或いは図6に示すように片側の下玉縁部7にのみ上記形状記憶部材9を縫着して取付けてもよい。図1及び図5において、前記ポケット本体6のポケット開口部5では、下玉縁部7及び上玉縁部8に相対峙し、芯材11に沿い付けて別布12で被封状態としたテープ状の形状記憶合金部材9をそれぞれ縫着し取付けた構成となっている。また、図2及び図6では、該ポケット開口部5で、下玉縁部7にのみ上記と同じく芯材11に沿い付けて被包状態とした形状記憶合金部材9を縫着し取付けており、一方の後身頃3には上口布19を垂下させ縫着された構成となっている。なお、形状記憶合金部材9は、上記したとおり形状回復特性、超高弾性等の優れたTiNi合金が適当であり、線材又はワイヤー状、細幅テープ状等のいずれでもよく、変態点で超弾性ないし超高弾性を利用し得るものであればよい。また形状回復を示す温度はTiNi合金の疲労寿命が高温域で劣ることからも、100℃以下の低温域で、例えば20℃以下が好ましく、弾性域で使用される場合に高い10⁵～10⁷回を越える疲労寿命を期待することができる。また引っ張り試験で50～60%の伸びを示す韌性に富む材料がさらに好ましいが、被服の種類、用途及び経済性等との関連から適宜選択することができる。

【0010】そして、着用者が例えば袋部17に収納した札入れ20を取り出す際には、ポケット開口部5に手を挿し込み、更に手を上に向けるとポケット開口部5の上方にも下方の袋部17に続く袋部が形成されている為、大型の札入れやパスポート等の貴重品を取り出しできる構成となっており、更にポケット開口部5の変形や半開き状態の型崩れ等の外観デザイン上の体裁を格好よく整えることができる。なお図中、21は向当布、22はウエスト帯部のベルト挿通環、23はウエスト帯部の芯、24はウエスト帯部の裏当地、25は前ポケットである。

【0011】また、出願人は、実公昭63-21529号において、スラックスの表生地に切目を入れて上生地部と下生地部とに分割し、下生地部の外側に表当布を設けて上端部が開口となるパッチポケットを形成し、上生

地部の裏側には裏当布を設けて逆向き上ポケット形成し、開口部を中間部に備え、かつ該開口部を隠蔽状態としたスラックスのヒップポケットを提案しているが、該ヒップポケットにおいても同様にポケット開口部の上下端縁部の少なくとも一方に上記形状記憶合金部材9を被封状態として装着した構成とすることができる。さらに、被服の上衣に関する実開昭56-31510号において、表胸ポケットに付設した名札形のフラップを胸ポケットに挿し込んだ状態でフラップが完全に隠れるよう10に取付けた洋服の上衣、或いは実開昭59-172730号において、ポケットの上端縁部からネーム等を表示したフラップを垂下させ、稍下方位置にフラップの差し入れ部を形成した上衣の胸ポケットにも、同様に該ポケット開口部の所望の上下端縁部の少なくとも一方に上記形状記憶合金部材9を被封状態として構成することができる。なお、本発明の一実施例について説明したが、本発明は上記した実施例に限定されるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲の設計変更等があっても本発明に含まれる。

20 【0012】

【発明の効果】本発明の被服のポケットは、上述のとおり構成されているので、着用者の体温による衣服温度で略直線状等に形状回復し、特に着用時に頻繁に差し入れ、或いは洗濯、クリーニング等により傷み易い被服のポケット開口部の型崩れや変形、半開き状態を防止する。また、外観視認上も従来品と殆んど変わらず、設計基準の再構築も要せず、適宜形状記憶合金部材の種類や形状、寸法或いは特性、さらにコスト、経済性等を勘案して選択し簡易に製造することができ、着用時の外観デザイン上も恰好よく長期間にわたり体裁良く着用できる被服の改良につながる等の効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【図1】ポケット開口部の上下玉縁部に形状記憶合金部材を装着した一部切欠縦断面説明図である。

【図2】下玉縁部に形状記憶合金部材を装着した一部切欠縦断面説明図である。

【図3】前記図1の一部拡大断面図である。

【図4】前記図2の一部拡大断面図である。

【図5】上下玉縁部に形状記憶合金部材を装着した一部切欠側面説明図である。

【図6】下玉縁部に形状記憶合金部材を装着した一部切欠側面説明図である。

【図7】ポケット開口部を示すスラックスの一部切欠側面図である。

【図8】ポケット開口部を示す上衣の側面図である。

【符号の説明】

- 1 スラックス
- 2 上衣
- 3 前身頃
- 4 後身頃

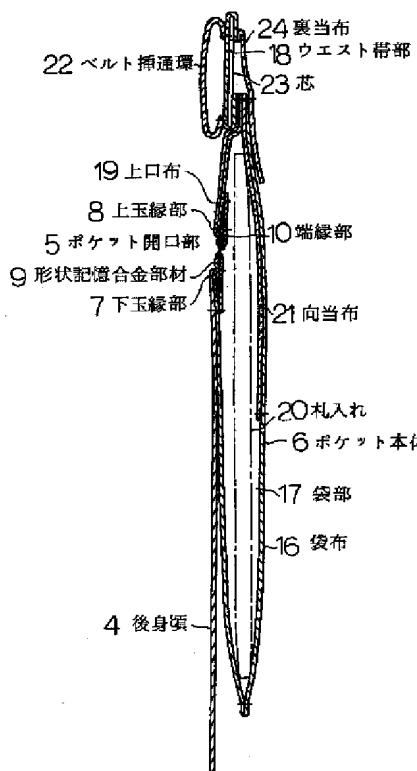
7

5 ポケット開口部
6 ポケット本体
7 下玉縁部
8 上玉縁部
9 形状記憶合金部材
10 端縁部
11 芯材
12 別布
13 ピップポケット
14 胸ポケット
15 脇ポケット

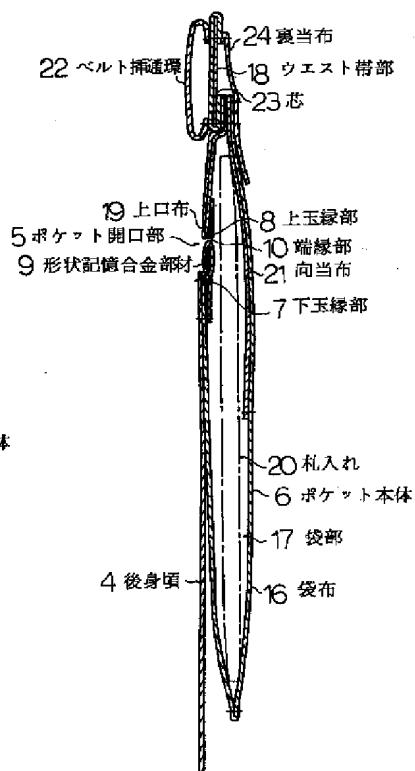
16 袋布
17 袋部
18 ウエスト帶部
19 上口布
20 札入れ
21 向当布
22 ベルト挿通環
23 芯
10 25 前ポケット

8

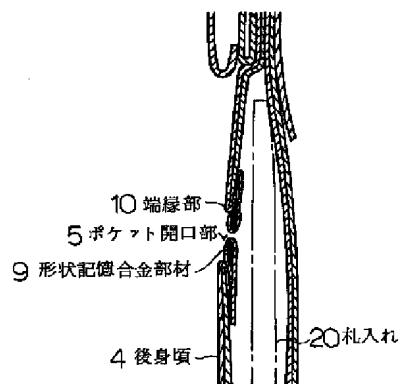
【図1】



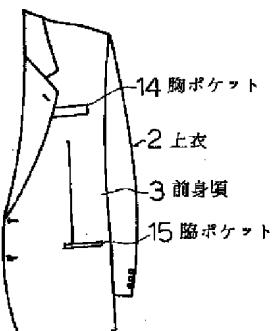
【図2】



【図3】

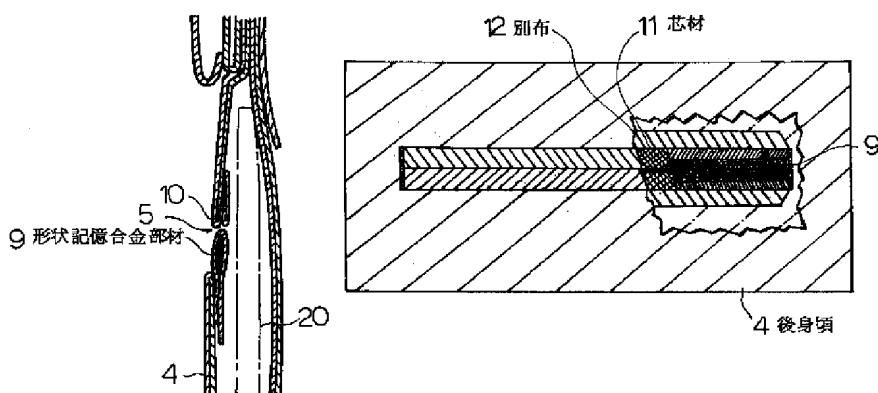


【図8】

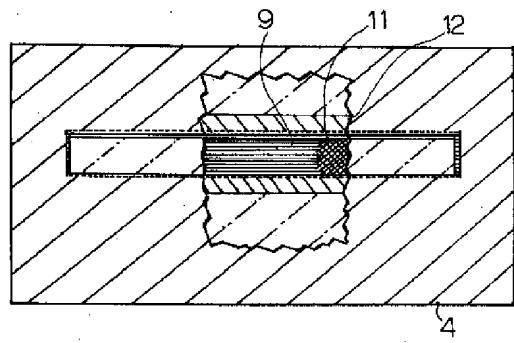


【図4】

【図5】



【図6】



【図7】

